

湘南地区 防災まちづくりワークショップニュース 1

～柳島自治会館にて、防災まちづくりワークショップが実施されました～



防災まちづくりワークショップとは…

災害に強いまちづくりを進めていく上で重要なことは、市民と行政等が、それぞれの役割を担い、継続的に取組を進めていくことです。今回は湘南地区をモデル地区とし、市民と行政が共に協力して、地域から何が出来るのかということワークショップ形式で話し合っていきます。

第1回の11月24日(日)では、住民や中島中学校生徒会の皆様など30名の方にご参加いただきました。ワークショップでは「防災まちづくりについて知る」ために、湘南地区の住民の皆様で行われている防災活動の様子や、行政が把握している地域危険度や防災に関するまちの様子などの情報共有を行うと共に、東京大学の加藤孝明先生にご講演をいただきました。

<ワークショップで行うこと>

第1回(11月24日)
防災まちづくりについて知る

第2回(12月8日)
まちあるきで資源と課題を見つける

第3回(1月19日)
未来の柳島について考える

第4回(2月23日)
地域で取り組みたいことを考える

ワークショップ参加者

(住民) 湘南地区住民の皆様
中島中学校生徒会
(有識者) 東京大学 生産技術研究所
加藤孝明准教授
小田切利栄特任研究員
(茅ヶ崎市役所職員)



【開催のご挨拶】
湘南地区自治会連合会 後藤会長

■ 11月24日のワークショップで行われたこと ■

開催のあいさつ	湘南地区自治会連合会 会長 後藤金蔵
開催趣旨等の説明	茅ヶ崎市都市政策課
湘南地区で行われている防災活動の紹介	柳島自治会 小川 勇次
市街地状況と地域危険度の説明	茅ヶ崎市都市政策課
基調講演	東京大学 生産技術研究所 准教授
「地域から進める防災まちづくりのポイント」	加藤 孝明
各班での話し合い	

発行：茅ヶ崎市 都市部 都市政策課

発行日：平成25年11月

TEL 0467-82-1111 (内線：2504)

FAX 0467-57-8377

湘南地区で行われている防災活動の紹介

湘南地区連合会、柳島自治会、中島中学校の防災の取組を、代表してご紹介いただきました。



柳島自治会 小川勇次さん

柳島自治会の取組み

2013年9月29日

・ 共助訓練 消防による放水の見学



・ 体験教室 車いす避難体験



8

湘南地区連合会の取組み

2013年10月6日 湘南地区連合会避難訓練

場所：柳島小学校

参加者：自治会80名程度、中学生60名程度、
小学生以下の親子連れ100名程度、
市職員30～40名程度 約300名



中島中学校の取組み

・ 全校の火災避難訓練



2

市街地状況と地域危険度の説明

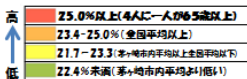
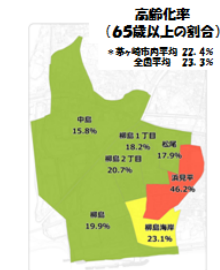
まちの変遷や現在の建物や人の様子、災害時の地域危険度等をご紹介いたしました。

湘南地区のまちの変遷 - 現在 -



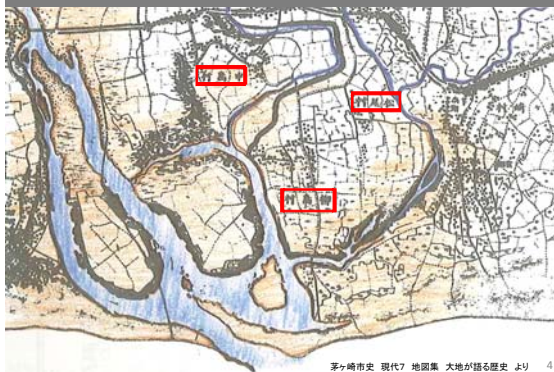
地区別の人口比率

【※：柳島市：平成26年1月1日（住民基本台帳） 合計：平成22年（国勢調査）】



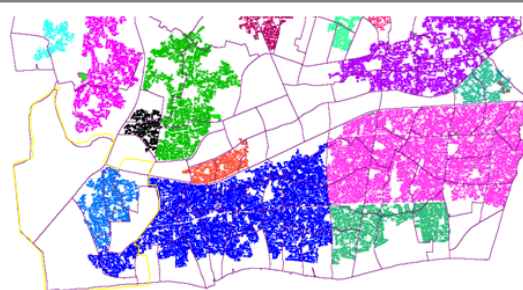
14

湘南地区のまちの変遷 - 明治15年（131年前） -



※市：柳島市 現代 地図集 大地が語る歴史 より 4

火災危険度



柳島1、2丁目、松尾、柳島海岸の
多くの建物がクラスターに属しています。

29



< 東京大学生産技術研究所准教授

加藤孝明先生 >

都市計画やまちづくりを専門とし、平成20年度の地震による地域危険度測定調査をはじめとした茅ヶ崎市の都市防災事業に幅広く協力。市民協働の防災まちづくりに意欲的に取り組まれており、神奈川県地震被害想定調査等、国や自治体の都市防災分野の専門委員等を数多く歴任。

新しい試み：GISを用いた「地域主体」の災害対策を考える
ワークショップ(2009.4.19)



主催：東新小岩7丁目町会が主催、NPO「広域ゼロメートル市街地研究会」は共催支援に回る。
参加者：東新小岩7丁目の住民、連合町会役員、周辺の町会の役員も参加
目的：GISを用いてリスク認知、及び、対策の検討を行う
WS後の動き：隣の町会へ展開

(右図) 加藤先生が近年「最も感動されたシーン」
普段はパソコンなどあまり使われない地域の町会長さんが自らパソコンを使って地域の様子を説明。町会長さんの知っている地域の様子と、行政の持つ建物等の情報とを併せ、生きた情報として提供することが出来た。

< 講演概要 >

1. 防災の基本

- ・ 防災の基本 として、災害に強いまちをつくるには、「**人間の本質を理解した上で考える**」「**自助・共助・公助のあるべき姿を理解する**」「**災害イメージを高める**」ことが重要である。
- ・ 都市において、人間は本質的に災害に備えない傾向がある。そのため、防災「だけ」まちづくりから、**防災「も」まちづくり**へと方向性を変えていく必要がある。
- ・ 「自助・共助・公助のあるべき姿」は、自助・共助で「状況認識に基づき自立的に対策を推進」し、公助と「相互の責任、役割分担について事前に合意」し、相互に「起こりうる地域の被災状況に関する共有認識」を持つことで、現状の防災性についての共有認識につながる。それらが持続的な「自助」「共助」「公助」の実現につながっていく。
- ・ 過去の事例に学ぶことは必要だが、**学び過ぎないように注意**しなくてはならない。阪神淡路大震災や東日本大震災の被害状況は、万能の教科書ではないので、「**今の時代、自分の地域に即した翻訳作業が必要であり、「環境と人を見る目」と「想像力」が重要**」となる。

2. 「これからの防災まちづくり」防災・減災を地域ぐるみで考える

- ・ 現在の日本は「山を登る時代」から「山を下る時代」となっており、防災の取組も東京スタンダードの取組の考え方から**各地域で新しいモデルの創出へ**多様性を持つ時代となっている。
- ・ 上記のような時代の流れの中で、行政の縦割り機能も風船のように膨らむ時代ではなく、ピンの首のように細りつつあり、そのような行政の連携を促す役目を担えるのは、住民の協働である。
- ・ 「行政への要求型」の活動は終焉し「**住民先行・行政後追い型**」となっていくことで、自助・共助・公助のあるべき姿である、「自助・共助」に対する「公助の支援」が実現していく。それにより、地域で考え、地域から新しい仕組みを創出・提案していくことができる。
- ・ 「幸せに生活するための二つの方法」には、「**知らない幸せ**」と「**知っている幸せ**」がある。地域についてよく知ることで「**災害危険は地域の資源!**」として対応していくことが出来る。メガ・ハザードに、地域で協働し対応していくことが新しい文化、暮らし方、の創出につながっていく。
- ・ 防災まちづくりに取り組むために「**持続性を確保できるかどうか**」が重要であり、それには以下の3つのキーワードがポイントとなる。

【**広げる**】次から次に人材が現れる状況づくり・・・裾野を広げる

【**深める**】地域内での活動の広がり・重層化・・・内容を深める(多様なコミュニティの参画)

【**繋げる**】断続的に現れる新たな「発見・成果」・・・次の動きに繋げる

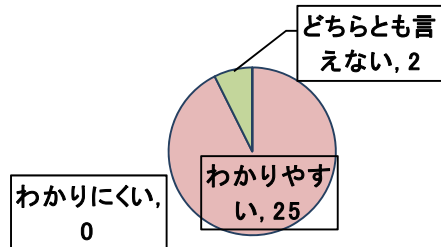
- ・ メガ・ハザードに備えるため、「**悠々として急ぐ**」(2012年度茅ヶ崎市防災都市づくりシンポジウム)という心持が大事である。

ワークショップのご感想 結果

第1回ワークショップの際に、ご記入いただきましたご感想結果の一部をご紹介します。貴重なご意見をありがとうございました。(ご回答：27人)

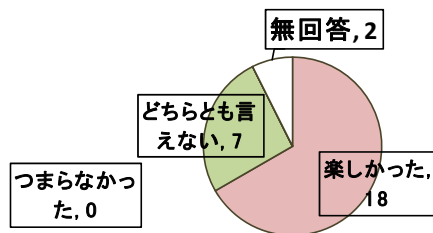
説明のわかりやすさは...？

選択肢	回答者数
わかりやすい	25
どちらとも言えない	2
わかりにくい	0



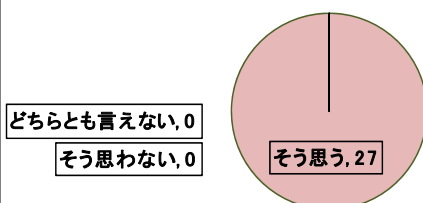
本日のご感想は ...？

選択肢	回答者数
楽しかった	18
どちらとも言えない	7
つまらなかった	0
未回答	2



今後も防災まちづくりについて地域で話していきたいですか？

選択肢	回答者数
そう思う	27
どちらとも言えない	0
そう思わない	0



- 今日のワークショップで湘南地区の防災についての取組、今まで知らない活動を知りました。資料を基に、湘南地区の地図と照らし合わせてみて、初めて分かることがたくさんありました。その地域の特性を知った上での防災をすることが大切だと分かりました。また、私たちに出来ることは話し合いをしてたくさんありました。これからまちあるきをして、発見が出来ればよいと思います。
- 地域の特性を理解することが災害に強い地域を作るための第一歩になると分かったので、まちあるきでは細かいところまでしっかり見てきたいと思います。ワークショップの説明と資料はとても分かりやすかったので参考にしたいと思います。
- 防災意識の高い自治会、地域であることを改めて感じました。加藤先生のお話も分かりやすく、大変参考になり、学び過ぎの落とし穴については、誰しも考えなければならぬ大切なポイントだと思います。出来れば中学校でも、職員、生徒はもちろん、保護者にもお話ししていただけるとありがたいです。
- 講演会の加藤先生の内容は市民の視点に立った分かりやすい話であったと思います。もう少し多くの方が聞いた方がよいものではないかと思いました。中学生だけのグループではなく地域のグループに入った方がよいように思いました。
- 加藤先生のお話を聞き、防災に対する考え方に新しい視点を見出すことが出来ました。自分も地域の一人である認識を持ち、まずは、話し合いに入ることが大切であると考えました。学び過ぎは人の考えを狭めるというのはその通りですね。ありがとうございました。
- いくら今のコンピューターやスマートフォンの力がすごかったとしても、実際にそこに住んでいる方々と協力をしなければ、スマートフォンが活かされないことを知った。また、阪神・淡路大震災や東日本大震災を学び過ぎないと言っていた時はビックリしたけれど、阪神・淡路大震災は朝だったとか風の強さがあり、また、東日本大震災も色々な条件があって、今度あるかもしれない地震も予想した通りにはいかないというのが印象に残った。
- 各地域の防災に対する意識の高さがわかりました。自治会役員の方や防災リーダーが防災訓練に対し、住民への理解を高めるために工夫をしたり、多くの取組に感心しました。加藤准教授がお話ししていた持続性をどう確保するか、それが大事であると感じました。今後の防災まちづくりワークショップにもぜひ参加し、地域住民の多くの方に防災に関する関心を広げていきたいです。
- 災害が起こった際はやはり地域で守っていかなければならないので(共助) 今回のワークショップでどんなことが問題なのか話し合っていきたい。
- 今回ワークショップに参加させていただき、大変勉強になりました。今後地域で活かすことを考えていきたいです。

